

提 案 概 要

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 美術部会

1 提案テーマ 『美術を通して自分を見つめる』

2 単元(題材) 友達スケッチと自画像

3 学年 第1学年、第2学年

4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

①図画工作科から美術科へのつながりを踏まえ、感性や想像力を働かせ思考・判断し、創意工夫をしながら表現したり鑑賞したりする力を育てる3年間を見通した年間指導計画、評価計画の作成

5 学習指導要領との関連

第2章 第6節 美術 第2 各学年の目標及び内容 [第1学年] 内容

A表現(1) ア 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すこと。
イ 主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

B鑑賞(1) ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。

第2章 第6節 美術 第2 各学年の目標及び内容 [第2学年及び第3学年] 内容

A表現(1) ア 対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出すこと。

B鑑賞(1) ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

6 実践に向けての課題意識

美術に対して苦手意識をもつ生徒が多いように感じる。やる前から「できない」と消極的で自信のない発言をよく耳にする。その理由として人との違いを恐れ、他人の目を気にしていることがあると考えた。また、美術が嫌いなのではなく、うまくできないことで苦手意識をもっているようだ。そこで生徒がやってみたらできると感じる課題として10分間の友達スケッチを授業に取り入れた。苦手な教科の授業時間の進み方はとても遅く感じる。10分という短い時間で集中力を持続させ、目をそらすことなく見つめる作業を経験させることによって、対象を見つめ感じ取る力を高め、「やってみたらできた」という楽しさや達成感を感じさせたい。

2学年の自画像の制作活動においては、自分についてじっくり考え、見つめて描くことに重点をおく。1学年で身につけた資質や能力を活用し、さらに対象を深く見つめ感じ取る力を高め、自分の表現方法を工夫し、創造的に表現する能力を伸ばしていきたいと考える。

7 実践の概要

○年間指導計画について ～ものをみる力をどのように育てていくのか～

1学年で友達スケッチを行う。ここで「全力で取り組むこと」「人との違いを知り、受け入れる姿勢をもつこと」を学ぶことを意識させた。美術に対して苦手意識をもって入学してきた生徒に「やってみたらできるかも」と前向きな気持ちを作ることを意識して3年間のスタートをした。

2学年では水彩着色する「手のある自画像」に取り組む。外見だけ似ている証明写真のような自画像ではなく、自分についてじっくり考え、見つめて描くことに重点をおくよう指導し、気持ちを作っていく。自分を知るために時間をかけ、自分とはと考えさせる課題である。3学年ではなく2学年で自画像を描かせる理由は、不安定で目標を定められない、頑張れるときと頑張れないときがある「ありのままの自分」を表現させたいからである。生徒は、3学年になると進路を意識し、面倒くさかったり、やりたくなかったりすることでも我慢してやろうとする姿勢が見られる。進路という課題が目前にない2学年の方が素直な気持ちを表現できるように感じる。自分の長所も短所もすべて自分であることに気づかせたい。また、できあがりが多様な作品から、その人らしさを感じ取らせることで他者理解につなげていきたい。

8 成果と課題

○成果 カリキュラムを進めるにつれ苦手意識がなくなり、前向きに作業に取り組めるようになった。また、人との違いを肯定的に考えられる生徒が増えた。

○課題 友達スケッチと自画像のタッチの違いやそれぞれの良さを生かし、勢いのある線を引き出すための手立てを考えたい。

9 協議の柱としてほしいこと

○自分を見つめる力を養うための工夫

○自画像の指導方法の工夫